コロナウイルスの啓示（２０２０・４・２３）

すでにＷＨＯがパンデミック（世界的大流行）と宣言した新型コロナウイルスの蔓延は世界を破壊しはじめている。これは進歩したはずの科学が制御できない新型の病気が蔓延しているという以上に、人類が構築してきた文明の方向が巨大な間違いであったかもしれないという啓示として理解する必要がある。以下に三点の問題を指摘したい。

第一の問題は人間の移動の増大である。一九一八年に流行したインフルエンザは世界の人口の三割を感染させたが、欧州に進軍した米軍兵士が原因とされている。陸路、海路より高速の空路の発明により、現在は当時とは桁違いの人々が移動しているが、その人数は二五年前の年間五億人から現在では一四億人になっている。

日本の観光産業の窮状が明示するように、この人間の移動が停止すれば経済が維持できない国家が続出し、物資の移動が停滞すれば複雑な相互依存で維持されている製造産業も破綻する。最近では移民という長期の移動も急増している。発達した大量高速の移動手段が世界規模のウイルスの運搬手段を提供していることになる。

第二の問題は人間の活動範囲の拡大である。コロンブスがアメリカ大陸を発見し、その未知の大陸へコレラやペストをもたらして先住民族を激減させた一方、コロンブスの一隊が欧州にもたらした梅毒は数年で欧州全域に拡散し、五〇〇万人が死亡したと推定されている。驚嘆することに二〇年後には日本にも伝染している。

アメリカは二〇世紀初頭からパナマ運河の建設を開始するが、熱帯雨林を開拓していく過程で疫病が蔓延し、その問題を解決するまで工事は開始できなかった。最近でもエイズなどの新規の疫病がアフリカ大陸から世界に伝染しているが、急増したアフリカの人口が奥地へ進出し、未知のウイルスと遭遇した結果である。

第三は地球規模の環境変化である。二〇一四年にデング熱病の感染が東京で発生して騒動になったが、原因は気温が上昇して媒介するヒトスジシマカが東京でも越冬できるようになったことであり、現在では本州北端まで範囲が拡大している。ジカ熱病を媒介するネッタイシマカもアフリカから欧州に北上している。

気温上昇はシベリアなどの永久凍土を融解させはじめ、これまで凍土内部に封入されていたマンモスやトナカイの死骸に付着していた未知のウイルスが蘇生して地上に出現し、ロシアのヤマル半島では実際に死者が発生している。さらに気温が上昇していけば、未知の病気が次々に登場してくることは十分に予想される。

人類の歴史は長目に推定しても数百万年であるが、とりわけ直近の数万年間で異常な発展をしてきた。人口は三桁増加し、消費するエネルギーも一人あたりで二桁増加している。しかし、その急激な発展は環境を激変させる代償によって獲得したものであり、その何倍も緩慢に変化する自然環境とは相容れないものである。

その矛盾が資源の枯渇、生物の絶滅、気温の上昇などの環境問題であるが、追加して登場してきたのが疫病の流行かもしれない。今回のパンデミックがいつまで継続するかは不明であるが、自宅に籠城せざるをえない多数の人々が人類の過去から未来を塾考し、社会が方向転換をする契機となればウイルスのもたらした千載一遇の機会かもしれない。